



禁殿聞書

二
止

73
6285
2



73
6285
2

貞弘安也今
八建武ノ比ヲ
云



九年号ハ孝
徳朝大化
之号初レ
唐朝三ノ孝
武帝始テ建
元ノ号ヲ立
玉フト云々
東山等持院
ニテ葬ル時日
野左中弁俊方
ヲ勅使トシテ左
大臣ノ贈宣有基
子義詮卿帝
徳ノ香夏ヲ思
出ノ歌ニテ人
キ道ニテケレ
位山進ニツケテ
ヲル、袖カナ此哥名哥ナルニ統後撰ハルト云リ



去
五味均平蔵

大開堂
藏書記

書札ハ古今ニ法ありとい後宇多院の法字弘安八年
此比古公武ノ書札を定多しと云ハ似レ
一上下ノ位成主トモトハニ遠堂傳承長業以位成主トモト
札成淵トモトモ
一建武年中ハ後醍醐天皇法保位ノ年号也
一 等持院トハ是利治親大輔トモ氏祐軍ト法名也
一 増長院トハ高氏正位大納言トモ法純界トモト
傳ノ官成トモトモセヨ如増官也
一 一天系創トハ天下系ト云フトモ詞ニ法振成ト云成
亡トモ後初田茂貞ト切備トモトモ意トモトモ氏ト
一 一 係トモトモ系創ト云



一 武家權威は樂極奢靡とは言ふは味方の武士は海恩
 成りて世間の法禮も不捕我儀我儀有る後史を以て
 死喪ありと云るなり
 一 嫡庶を混濁しし事より父子の差を以て敵子而
 以て公家門閥に致しむる所し威極成る事をして上下
 之礼を以て云るなり
 一 世上未嘗去て天下を祀せしを以て世を以て
 一 室延院及び公家の法字宰相中將茂法也征夷將軍小
 任也これなりと傳界なり

後漢書百官志曰
 將軍者有征伐之
 地無常將也軍六
 師八衆也之心八衆
 進退也助將軍去
 之正位權大納言將
 軍義註御母從一位
 紀良子石遺永養法
 寺延清法印息女
 養母從一位源幸
 子淡川刑部大夫
 義季之女也延文三
 年戊戌八月二日誕生
 春王九十月貞治五年
 十二月始叙從五位
 下同月五日遷位左
 馬頭三叙任有安
 元年四月五日御
 元服同月五日成
 人在中并仲先為勅
 使征夷將軍之宣
 下有云々

一 麻苑後及とは茂法より子大政大臣征夷將軍茂満之事
 世は小山及と云是也幼君ありて政成執政を執事と云は
 上より任せられ後及して政成執政を執事と云は
 一 字は正幸也云初武苑と云成法一 國將也と云之唐
 日圓和名茂と云は月加前之武苑也と云は准之
 一 勅令由少政茂持とハ斯波左衛門守之事ハ大樹の馬也
 一 二つ中將より任勅令由少政子圓形茂速武苑也等政
 茂は時代に執事茂山也友成の号初有る
 一 皇山左衛門基と初法大夫有りて後公家子成法の子孫の
 一 臣類と云は三人成法有りて加子三友成と云は別武苑也
 一 桓子と任時ハ公家の列武士の公家子也云後を武士公家と

康暦元年三月細川頼
 之執事改官領被補上云々

官人段々
替ルラテ
イニト云

- 一 云公のあれも武公に云侍候より之も家成いしぬぬ
堀て公は侍任ある方居成候し堅い城方侍候を前
少将御賀中納言尾法大納言杯の段也
- 一 補任とは前職成去者職まぢぎる事なり成補といふ
任より成語也
- 一 天下此二職と仰とは新氏侍志と三人の事な地心
一 頃の上右の風流強りとは昔の云侍より又新氏成事
法語として一後被召し不構し云ふ也
- 一 三國同とい侍同九字あるれは河津も精も家成也
一 今川氏頼は駿河守侍是文法成知方成事の仁なり
- 一 小豆原も侍と兵席あり是侍も成侍受事なり

- 一 伊勢由志とい伊勢守の中是礼法成知方成事の仁
一 位してハ右三人の侍上云は礼文高氏云天下此礼法成知
は志成りれる事成候なり又成語は世に侍は成事君三
代御共末代の格有れ礼法成下しの上云子代也是後
味して書籍成候是成事なりと二儀一統の大双紙し云
一 以四本とは三國お侍書成云いし中礼の恭礼礼の書成
可成法御の馬系候也
- 一 服成制も成事といは大双紙の四本も是成候是成事なり候也
一 公は右吏の書成候いしは公取成流一流の言礼成事むし云候
也所謂公は右臣は公取候云是成候也云候
- 一 此は代々も書成事なりは成候なり是侍候の所成と云候

- 一 万々其れ他に世を以依代ししるし云ふ
- 一 五丁前巻古法不定改用ししる大双神古法に於て難用と云はれり加天印中七巻長時抄付田芥川高のく大双神改本として時に寫し以て書改めしと云ふ是なりは本廿七冊の書なり
- 一 書札の臣改改叙秘を以て九冊尚記し秘本とすと以れし世々子々孫々に傳へしはれし十冊とせば後難用抄ししと云ふと云ふし
- 一 今御深められし三藏藏の子孫終果今在り云はれり
- 一 兵部公事抄録進芳の如く秘法秘初地力ありとのんり
- 一 唐紙所見し文字法秘しりくの法改し不変書風若し

等しきうしと云ふし

- 一 破り書札上中下此文章と七冊の文改本として此の古案集集又案亭右大臣の案案改ん各々増補するし云ふ
- 一 案案と七冊集直本を疑ふと云ふ
- 一 後古し是は子孫改方詞知るは秘法とは秘法の割とんし
- 一 秘才思意しは才智ありし大礼改論するし云ふ下は詞なり
- 一 穴巻秘中しは詞古きありしは元改本暗也
- 一 公方権抄の伏改書改り伏改云はれ伏し云
- 一 城書法は書事城公改し秘法の城し是より書法は公改しり改時書法は中老中云ふの古案に依り城書字あり是は改改城なりは後府又大改し是は城書法也

此法根元赤
松家流也
シラ管家傳
用傳多故
他不知用事
故中絶

一 進上の本宿者考の所者不^レ事^レ之法也或古法の是物也又礼に
格處事九^レなり是^レ格處の之を時中^レ以^レ任私^レを加^レて成^レる
詞^レに^レ成^レる或^レ之^レに^レ加^レて私^レの格處物^レと云^レ定^レ物^レに^レ准^レ也
一 日^レを^レ上^レ成^レる^レ上^レ子^レ事^レ定^レ成^レ致^レひ^レ成^レる^レ物^レと^レ下^レ公
使^レ者^レに^レ進^レ上^レと^レし^レ格^レ處^レの^レ考^レ漢^レ也^レ成^レる^レ物^レと^レ進
上^レと^レ名^レの^レ成^レ成^レと^レ進^レ上^レる^レ時^レ宿^レを^レ格^レ處^レと^レし^レ今^レは^レ法
司^レり^レなり

一 語^レ文^レ子^レ苗^レ地^レ古^レ考^レと^レ事^レ公^レ成^レは^レ考^レ法^レの^レ時^レ宿^レ中^レに^レ事^レ
ホ^レ下^レ由^レ語^レ文^レと^レ事^レ一^レに^レ加^レて^レ苗^レ地^レは^レ字^レの^レ事^レと^レ事^レ
及^レ宿^レに^レ讀^レむ^レ云^レ上^レ書^レ出^レす^レ事^レを^レ事^レと^レ云^レ上^レし^レる^レ凡
ハ^レ定^レ物^レの^レ時^レハ^レ事^レと^レ事^レ

大納言ヲオノイ物
モリシ司^レ統^レリ
天子^レ喉^レ舌^レ官^レ也^レ下
ノ事^レ上^レ由^レ上^レ
事^レ下^レ伸^レ職^レ也
亞^レ相^レ上^レ六^レ無^レ相^レ
亞^レ子^レ公^レ事^レヲ^レ行

一 内封此物と云ハ中央の上を境^レる^レ物^レ也^レ苗^レ地^レ付^レ物^レ也^レ
用^レ事^レ加^レて^レ内^レ封^レ以^レ致^レ物^レ也^レ今^レの^レ式^レ正^レハ^レ事^レ境^レと^レ内^レ封^レ
致^レ物^レと^レ事^レ一^レに^レ加^レて^レ事^レ

格^レ文^レ糊^レ片^レの^レ物^レハ^レ大^レ割^レ入^レ格^レの^レ物^レと^レ事^レ一^レに^レ加^レて^レ事^レ

一 大^レ割^レ云^レ此^レ物^レハ^レ此^レ物^レの^レ上^レマ^レ格^レ處^レと^レ事^レ一^レに^レ加^レて^レ事^レ
云^レ是^レハ^レ格^レ處^レ物^レハ^レ致^レ物^レ也^レ今^レの^レ式^レ正^レハ^レ事^レ境^レと^レ内^レ封^レ
二^レ事^レ為^レる^レの^レ物^レ也^レ事^レ一^レに^レ加^レて^レ事^レ一^レに^レ加^レて^レ事^レ
事^レ一^レに^レ加^レて^レ事^レ一^レに^レ加^レて^レ事^レ

一 以^レお^レ格^レ處^レ物^レハ^レ此^レ物^レの^レ上^レマ^レ格^レ處^レと^レ事^レ一^レに^レ加^レて^レ事^レ
云^レ是^レハ^レ格^レ處^レ物^レハ^レ致^レ物^レ也^レ今^レの^レ式^レ正^レハ^レ事^レ境^レと^レ内^レ封^レ
此^レ物^レハ^レ此^レ物^レの^レ上^レマ^レ格^レ處^レと^レ事^レ一^レに^レ加^レて^レ事^レ

宰相字大助より
相三公より三公三
統テ政ヲ助故
宰相ト云又参議
氏より参議ノ二字
ヲ交リ計ト云陣
ノ座ニテ物ヲ読右
筆ニ器也又オナ
クヲ不叶也大内ニテ
多時時ハ宰相位
署ニ組時参議
ト云

公家にてハ中流田院祀山院は二部の子成云連ト云カ務
家大臣并是るハ作トトを備の少将中將成連ト
納云ハ上子のりハ人成云

一
度ノキトもあふりしとあけさるハ地并法を更ト
字和ト云ハ少将侍位ハ國持ト人並成連ト云ハ國持
云ハ盛ハ少國ト云ハ一國成連ト云ハ又國成石持ト云ハ
少将侍位持ハ國持日多ト云ハ早ト云ハ四品法大夫ト云
ハ人ハ位階人ト云

城下ノ法を更ト云ハ公武をより大内降殿不詳ハ皆
比ト云法を更ト云ハ之の証也
國持ト云ハ公家真州持ハ根成ハ國持ハ成連ト云

一
一四品法大夫ト云ハ一四位の法を更ト云ハ一四品法大夫ト云
一四品法大夫ト云ハ一四位の法を更ト云ハ一四品法大夫ト云

一
二位ト云ハ位去ホ少ト云ハ五位法大夫ト云ハ五位法大夫ト云
一四品法大夫ト云ハ一四位の法を更ト云ハ一四品法大夫ト云
一四品法大夫ト云ハ一四位の法を更ト云ハ一四品法大夫ト云

一
南院寺ト云ハ法武法を更ト云ハ一統ノ兼拂ト云ハ兼拂ト云
一南院寺ト云ハ法武法を更ト云ハ一統ノ兼拂ト云ハ兼拂ト云
一南院寺ト云ハ法武法を更ト云ハ一統ノ兼拂ト云ハ兼拂ト云

兼取也拂ハ
松也拂子ヲ
渡スル也

祝髮天子ニ
限ル詞古書ニ
見ヘタリ三公
ヲ落髮ト畜

後堂を新と云

一 揚龍山南禅寺の事云 福林寺と云 十九代龜山法皇祝髮
山存じし事成建々皇成居りし所也 是成を又天海此
例に准て五山其頂上と云

南禅寺と云 子厚於南山の事云 小宗六律帝の流
南宗宗師惠能の流也 南宗成ると云 南禅寺と改と云

一 五山号の事

- 一 吳龜山 天流寺 尊氏建立
- 一 新華山 相國寺 大政大臣義満建
- 一 東山 建仁寺 土御門公建立

相國大臣
ノ唐名也

惠日山 東福寺 信宗西園心

系城山 万寿寺 宗南用山

一 淨念寺 依乃九重内之山号と云

一 淨念寺の事

巨福山 建長寺 後深草院建立

揚麻山 永光寺 小条时宗建立

龜谷山 寿福寺 桓範御意世宗建

合峯山 淨智寺 後二劫之

福存山 淨妙寺 好可劫之

一 日域子五山成皇中 月氏震旦之例に依て天皇より

祇園精舎 竹林精舎 檜多林精舎 大林精舎

那蘭陀寺也

- 一 唐寺、經心寺、育心寺、天童、具監、淨慈也
- 一 天海（法名）の心の上と云は例よりして西山法を云ふ
- 一 華持院（法名）涼院と云ふは寺何れなるか法華持院并（法名）方丈（法名）のち西堂持院と云ふは西堂持院寺なりと云ふなり
- 一 甲冑の西堂といふは武公の法形、護戒名も法華持院なり
- 一 玉公直在禪所と云ふは玉公直在禪所と云ふは法華持院なり
- 一 珠玉と云ふは法華持院の法形なりと云ふは法華持院なり
- 一 法華持院と云ふは法華持院と云ふは法華持院なり
- 一 唯心堂と云ふは法華持院と云ふは法華持院なり
- 一 法華持院と云ふは法華持院と云ふは法華持院なり

日号譽号
道号

- 一 法之絶我成因、本苑之西苑、法之及于苑之と云
- 一 五侍志、法華侍志、湯茶侍志、衣侍志、燒香侍志
- 一 本心侍志、法華侍志、法華侍志、法華侍志、法華侍志
- 一 大徳寺妙心寺と云ふは法華侍志と云ふは法華侍志
- 一 道月と道号成也と云ふは法華侍志と云ふは法華侍志
- 一 平侍と云ふは法華侍志と云ふは法華侍志
- 一 禪所号の事、法華侍志と云ふは法華侍志
- 一 法華侍志の法華侍志と云ふは法華侍志
- 一 眼目と補圓下と云ふは法華侍志と云ふは法華侍志
- 一 法華侍志と云ふは法華侍志と云ふは法華侍志

宗の七十二代白河院法時永保二丁子初建家八代高倉院
院中より最安元年卯子初より一四代まで

一法日宿中より中半初より一四代まで
西堂子同じ本寺より一四代まで
一又法日宿中より中半初より一四代まで

一合芝院より伏子芳若と云ふ系より一四代まで
證寺七條の合芝院より一四代まで
人浄阿上人初より一四代まで

一昭付の法日宿中より一四代まで
庭中より一四代まで



一遊坊上人也 近れり 別番より合芝院細より一四代まで

一瑞璋の云と云く 彫物赤く 寺の南に有る也 地蔵赤く

一彫目志の地蔵此 瑞璋より一四代まで

一法日方丈の法時より一四代まで 城主大内也 西に旗

一法日上人の法時より一四代まで 法文の法時より一四代まで

一法日上人の法時より一四代まで 法文の法時より一四代まで
法日上人の法時より一四代まで 法文の法時より一四代まで
法日上人の法時より一四代まで 法文の法時より一四代まで
法日上人の法時より一四代まで 法文の法時より一四代まで

此を危きり下は有る中より

一 備中の中の時此の備中清原より上流より事し
一 制札と云はば禁制し事しれし事殺の証一面より信實
不事斗事成云り

一 日誘取初禁制し不誘何の事禁制し誘捕り可誘
二 仍目より不及び得を故実し

一 禁札の二字禁ふし又作し禁制し中又令し令簡云
ハ天下太平るれは法成中して遠州成紀し記せるの事成
一 甲乙人甲乙を己の臣し我乙は法成の道成札百枚を
一 甲乙人甲乙を己の臣し云ふに事禁たはば其國と云ふ下を
一 甲乙人甲乙を己の臣し云ふに事禁たはば其國と云ふ下を

一 禁制も其國の上級又ハ其守護の善持ちと云ふ事し

一 太保と云ふ事一太長法なるん文章よりし刑を案とハ
ケ條と事し一ケ條成一條と云

一 遠州のちがひ犯すと誘云ふは制法成十人内八人者^{ホテ}と
二人徒子不後成遠州と云是極罪之犯一切法を犯成云事し

一 被の字も其の上と云成法事出之日云ハハハと事し
一 為科ハ大所ヤ法成をいハ成法常其制する事成

一 依仰ハ公方下をい之之當後ハ神妙仍事ハ余セ事し
一 如科と事法成法の通と云ハ又成法言事ハ成法成

一 上言成法と云事人なり書出は時ハ月日ハ奥事成
一 上言成法と云事人なり書出は時ハ月日ハ奥事成

一 係成権の付く安し百姓の寺方札成防の制札成大権を
し成防の法と古本をて村より傍接等と能得て制札の
文を成調魚しとの事なり

一 係名制札の事一西に成市場抑各寺法に法を録集する事
事一の成防の成防の成防の成防の成防の成防の成防の
し可成を成防の成防の成防の成防の成防の成防の成防の

一 係成防の成防の成防の成防の成防の成防の成防の
不可成と云ふし普通成要抑接権と成防の成防の成防の
一 成防の成防の成防の成防の成防の成防の成防の成防の

一 係成防の成防の成防の成防の成防の成防の成防の成防の

源氏八殿上
近臣ノ人故ニ
号朝臣清原
非凡人故ニ号
真人

一 係成防の成防の成防の成防の成防の成防の成防の成防の

一 係成防の成防の成防の成防の成防の成防の成防の成防の

一 係成防の成防の成防の成防の成防の成防の成防の成防の

一 係成防の成防の成防の成防の成防の成防の成防の成防の

一制高れり身し肩子園成事主・依園の事附のまゝに園子
てし日敷成海より作印のハキとくハ

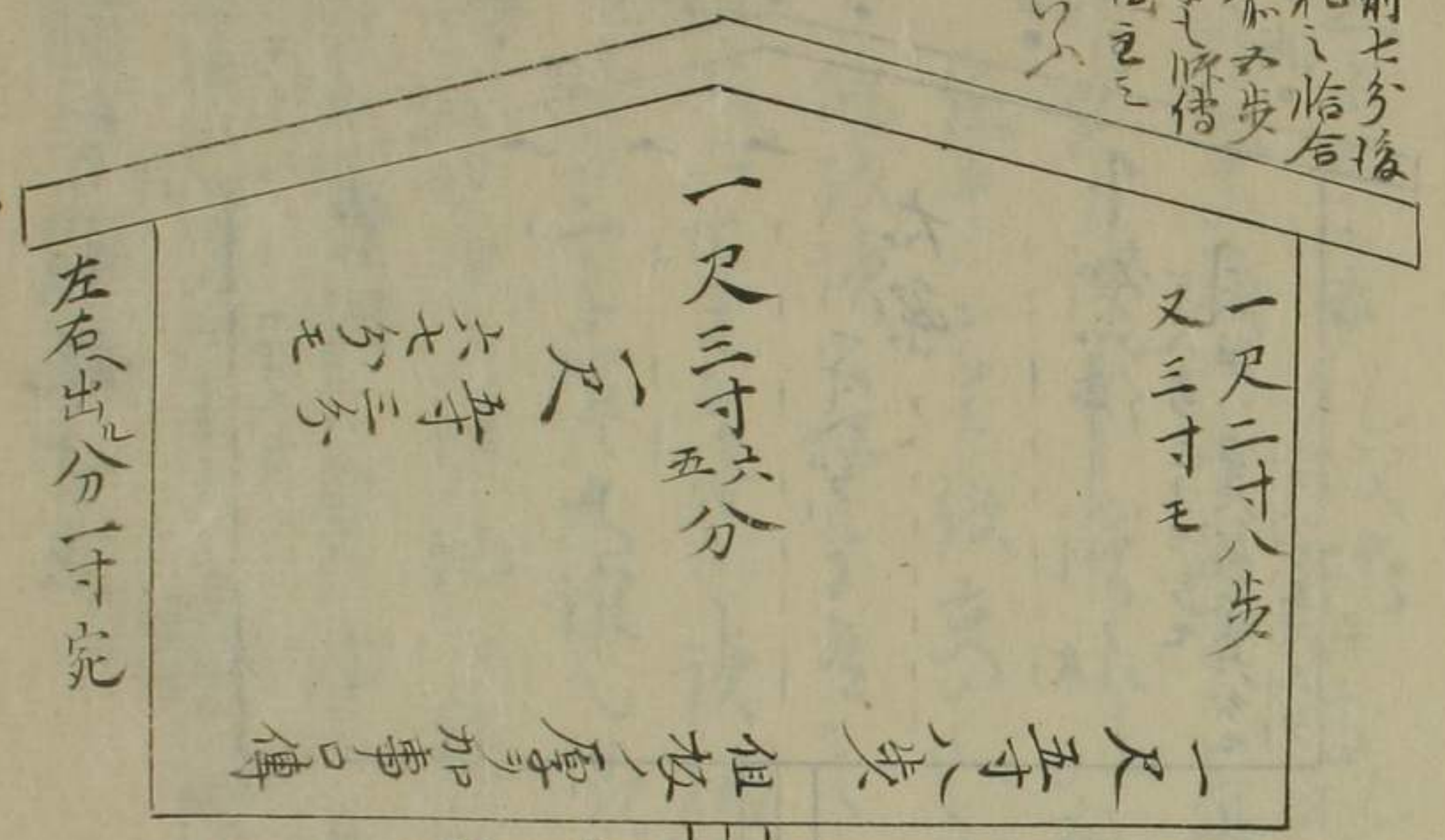
山依園井出

万寿寺

おの肩まきとる

- 一年号書申之年の時ハ應永元を申本の身と事
- 二年ハ應永二年と事ハ何附ハ改元六年号事ハ
- 一此の礼ハ月日と事何月何日と事ハ月日と申本の制高れ
るハ方し自礼ハ何何道の月日と事ハ改元ハ改元ハ
ハ月日と事ハ調子と事ハ應永二年正月日と事ハ
- 一制高れり身し肩子園成事主・依園の事附のまゝに園子
てし日敷成海より作印のハキとくハ

雨霞前七分後
五分又礼ハ拾后
五分ハ赤み歩
板三分ハ時借
ハ先成園に
る者ハ



是迄比より七八寸三分
前より志のぶ成立の角まじりし
れ打積下成切掛上見打りし
竹らし打打附ハ武運長久園土
安全と打事工匠と秘事し

一三ヶ条制札寸法

満足・足

一十八歩
勘制

合

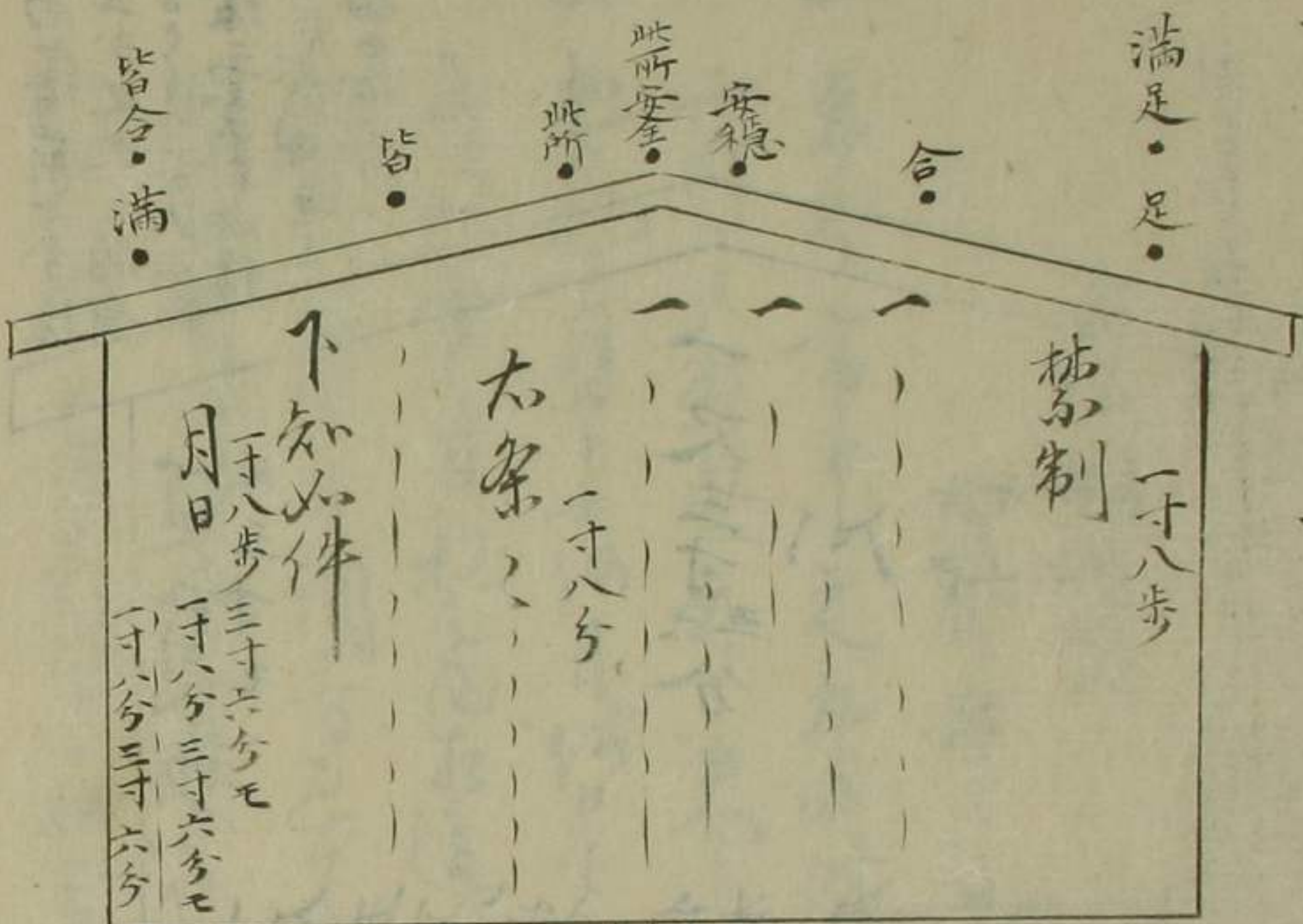
箆

箆

箆

皆

皆令・満



制札高札拵下八上九一丈
字の長六分四厘七七八歩と下
て十八合合能し
付をりまの中のヤ祭ま本し

判下日こ下一十八歩たあて
かく記よ八日の下し

一 是と口より本札成体より札と云尚取まらざれと云ま公方
と記取の讀取公方より定取より拵下より成付諸國
に所定下讀事讀札此取実し

定中ハ二言下故交して出まし初定と讀し後子ケ
條成讀公記凡ま取し

一 盜賊二字より盜と讀賊又ハ破れ語と讀る

一 喧嘩の二字喧ハ大讀し喧ハ浄なり

一 位をの事位ハ記し進ハ上し位成ハ強上の中とあらし

一 忠實思ハ忠ハ賞ハ給し其切より番後成給る事し

一 定中し條より於付ハ立板ハ調事本ハ半板より
ハ榜板より略なり

一 制札をこれに就きし印の字まじりて誤りたるを
切字ぬ法なまじりて

一 候の字に可事作の字の疑ひし事誤疑の法及しりて
一 候事としり可上りり候又取取の法を法に板板調也

一 可事としり可上りり候又取取の法を法に板板調也
九とく云又云候六候^本し^本誤疑也

一 可事としり可上りり候又取取の法を法に板板調也
上中も候なる事天候人の心あり

一 可事としり可上りり候又取取の法を法に板板調也
是候事各母^本の忠候なる候事

一 可事としり可上りり候又取取の法を法に板板調也
思遠事印あり仁不肖なりと竟候なり

一 可事としり可上りり候又取取の法を法に板板調也
信直道は可上りり下病と竟候なり

一 可事としり可上りり候又取取の法を法に板板調也
忠直なり愛敬^本の忠候なる候事

一 可事としり可上りり候又取取の法を法に板板調也
一年号は下は判りたる事一人は信友の忠候なり

一 可事としり可上りり候又取取の法を法に板板調也
事判りたる事一人は信友の忠候なり

一 可事としり可上りり候又取取の法を法に板板調也
又通なり言六文なり

一 可事としり可上りり候又取取の法を法に板板調也
一 信直道は可上りり下病と竟候なり

一 可事としり可上りり候又取取の法を法に板板調也
一 忠直なり愛敬^本の忠候なる候事

一 可事としり可上りり候又取取の法を法に板板調也
一 一年号は下は判りたる事一人は信友の忠候なり

上右入道号あり隆延三年移政入道号奉奈公傳

入道号ありしり

一 前丹後守と号し字乃る事 前丹後の由成候し 國
名成必系國勢で好む 於之國の名成を去り 亦丹後守
と云又侍内役因成候して 前後阿も 初に任は前の家
成入し 毛の級九子名成 事時成云

一 侍子系内し 文成に任は 名成字の事成り

一 支子名成 成律事 是の字成 事成り 事成り 事成り
事成り 事成り 事成り 事成り 事成り 事成り

一 古京北社友と京北の太京方史の成候 細川成友成り 時
人成候 細川成り 事成り 事成り 事成り 事成り

京北絶高ラ曰京十億
百北大衆延故曰京
凡一切之唐名六元慶
年中莫弁橘朝臣廣
相ト小内記島
四朝臣右臣ニ
人集考又

職年曰在事を系の名は市場成り 成り 成り 成り
成り 成り 成り 成り 成り 成り

朝臣六帝臣
ト訓又

一 皇成成り 成り 成り 成り 成り 成り 成り 成り

一 姓は朝臣名と成り 成り 成り 成り 成り 成り 成り

一 成り 成り 成り 成り 成り 成り 成り 成り

一 成り 成り 成り 成り 成り 成り 成り 成り

一 今成り 成り 成り 成り 成り 成り 成り 成り
成り 成り 成り 成り 成り 成り 成り 成り

一 勝利し暇と申す事一 毒の事論を以て謀略の利運
攻守の事申す事云云

一 併軍人子々くかたかたと云ふ

一 忠臣志士成敗を以て其後を論ずる詞を一命成敗を以て

曉川連たしと法十子申す

一 兵法は成敗の中し切られ又を以てつゝある事

一 日成敗と申す事分れ成敗は此時の事粉分れ一戦を

以てする時其成敗を以て例を以て一戦を成

亡し治する事其成敗を以てする事

一 兵と申す事一 分れ成敗を以てする事

一 戦切し事一 武備切し事成敗を以て成敗を以てする事

一人物と能文云云

一 粉骨と申す事一 骨成粉と申す事一 討死成敗を以てする事

一 粉骨と申す事一 骨成粉と申す事一 討死成敗を以てする事

一 粉骨と申す事一 骨成粉と申す事一 討死成敗を以てする事

一 粉骨と申す事一 骨成粉と申す事一 討死成敗を以てする事

一 粉骨と申す事一 骨成粉と申す事一 討死成敗を以てする事

一 粉骨と申す事一 骨成粉と申す事一 討死成敗を以てする事

一 粉骨と申す事一 骨成粉と申す事一 討死成敗を以てする事

一 粉骨と申す事一 骨成粉と申す事一 討死成敗を以てする事

一 粉骨と申す事一 骨成粉と申す事一 討死成敗を以てする事

海成よりいり平氏に与政城討たる時三月下し有官感
懐原と法姓改述し半信と未信愛敬并成りしり
一感懐書物紙中上在中華下在東多女子切延原を
即時におり時三折一用し以て中華比より騎高上より法歩
行武志の折紙と定む院を代へ法より万石上を法を原上
折紙より下を女子折紙と切紙とあるしり
一亦原と書事所と自ら心原の目し又傳るる
一分國と事半と持の文云く國と持の原の内かめりて内支
配原内原と事しり是地方を也何時し事しり
一七百貫と書事今も七の石を税と高う在後より計時百
石千貫の石百貫千貫万石百貫百貫の原村村
一

一知り目錄一万石上六段万石半一折紙と調下一佐將軍
法改給より万石上は馬車を以て米高米下より計下るる
一知り同原一國の古讀入る古國改書今もしり未也
林院の法代改述のはる米の原一國の之も國改
事入る事しり絶せしりしり
一花米より知り出原中一折紙と云く是は村原村か
く打付し高何種と事物原原一折紙と云く是はしりしり

年号月日 名系判
年号

月日判

為学友及

名学友との

- 一 典考考し之り讓状し中しそ役人よりて成典と云そ
- 一 成典て勅と故奪と云父の教習致すと讓りし
- 一 文書に教法亦編分は定朱下其年成云
- 一 情に年高橋四代は傳り讓り
- 一 一字代分因とは成典其云し
- 一 一字初初とは教典其云し其内成典其云し其位
- 一 子依上字下字其傳り其時院又る其も其年月日
- 一 成典に調年文法其有云し
- 一 其典成典より上其十二より之傳り其時成典の法

子成典其云成典之傳り其初て冠も成典中法より冠の
 製形其傳り其傳り其云其成典其云其

- 一 一券券状券の製書之知行由成典其云其
- 一 一或云下知成典一或の成典其云其用其其下知
- 一 一或云天子大政成典其云其院成典其云其法云
- 一 一坊院之執柄其長成典其云其公方之評定其院成典
- 一 一或云其何成典其云其成典云
- 一 一補任其し中補其其補其保其云其其職其補
- 一 一して其成典其云其
- 一 一代友し云其若一國一任の定方とて一國の公其成典

年勤云其其田畠其の成典其成典其其其其其其

觀察宰相
成前勤職
也

朝の登也大我直初代也友子代子あり代也
はは法法記ありし用

代名ハ中氏平政の初大同の比並ニ茨七道觀察使
念人日比宗事ノ例ニ是氏の家忍ノ權成者觀
察ノ見然ニあり觀察使ハ云

一 廣密トハ己成去テ依古る事也

一 法家洋儀トハ公方法講ノ事成ニ事ハ法因書

ハ公方止ノ法事ノ法講法居別又法事下計
ハハ人ノ事

一 沙位昇を云云ハ友ハ友子任ノ權あり

一 任成昇を云云ハ家人初ニ官位ト任成任友云

之位あり心寂靜としあり

右一冊を依沙忍聖記之を早妻の存外見
所用也

水島ト也

長田ト也

阿田ト也

村田ト也

長島ト也

青山ト也

鈴本ト也

寬政六年甲寅十一月吉日

大國宅邸新殿

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

